



遺跡遠景（西から）

みぞ 溝で囲まれた高台の集落

はぐろまえ ⑥羽黒前遺跡（仙台市宮城野区岩切、利府町神谷沢）

仙台市北東部と利府町南部の七北田川左岸にある丘陵の上に立地する、溝で区画された奈良時代から平安時代の集落跡です。

土地の区画整理に伴う発掘調査が、利府町教育委員会と仙台市教育委員会により令和3年度から実施されています。

令和4年度の仙台市教育委員会による調査の結果、奈良時代から平安時代の^{たてあなたてもものあと}竪穴建物跡が多数みつかり、外部からの侵入を防ぐためとみられる溝が北側の丘陵だけでなく南側の丘陵にもめぐっていたことがわかり、集落の性格を考えるうえで貴重な発見となりました。

【動画の視聴方法】

QRコードを読み取るか、れんげもんちゃんをクリックすると視聴できます。



旧石器

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治



調査区東側全景（南から）

白線を引いた部分がカマドをもつたてあな縦穴建物跡が残っていたところで、丘陵の南側斜面にたくさんの縦穴建物跡がつけられたことがわかります。



縦穴建物跡は一辺3m前後と小さく、大人2人が床に横になると、狭く感じる広さです。



丘陵の北側斜面を東西方向に延びるみぞ溝。令和3年度の利府町教育委員会の発掘調査で確認した長さを含めると、全長は100m近くになります。

協力：仙台市教育委員会